

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2570400263
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会
事業所名	グループホーム 花ごよみ
訪問調査日	平成 21 年 9 月 3 日
評価確定日	平成 21 年 9 月 24 日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査セン

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2570400263
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会
事業所名	認知症対応型共同生活介護所 グループホーム花ごよみ
所在地	滋賀県近江八幡市上田町1315-1 (電話)0748-37-8716
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査ゼ
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2階
訪問調査日	平成21年9月3日

## 【情報提供票より】21年8月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人、非常勤 0人、常勤換算	7.5人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	36,600 円	
敷 金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	650 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,650 円	

### (4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	近江八幡市立総合医療センター ヴォーリス記念病院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近江八幡の、水郷と田園の自然環境の中にグループホーム「花ごよみ」は純和風のたたずまいを見せて建っている。社会福祉法人ほのぼの会を母体とした一画に、特別養護老人ホームをはじめ通所介護や居宅介護支援事業所、多目的施設「遊楽庵」等の総合的な福祉施設を配して互いの連携をとっている。又近隣には大きなショッピングモールがあり至便な生活圏の中に建つ当施設は、開設六年の時を経て充実したサービスと「あなたらしく生きる」という尊厳を重視した理念のもと若い管理者とケアマネジャー、ベテランの職員共々、日々向上を目指している。利用者の明るい表情に職員との信頼関係の深さが窺える。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の大きな課題であった理念の作成は出来たが、管理者の交代に伴う諸々の事情により理念の共有の徹底には至っていない。又、唱和や掲示に適さない部分などの適切な表現の検討を全員で取り組むため引き続き今年度の課題としたい、との事であった。又、職員の研修体制確立では職員2名が今年度の介護福祉士の国家試験に挑戦すべく勉強中であり、新しいリーダーもより上の資格取得に取り組みを開始した。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	新しい管理者は自己評価作成のノウハウやマニュアルを消化し理解することに専念したが、職員との共同作業までは至らず、この件に関しても今後の大きな課題として取り組んでいきたいとのことで、その成果に期待したい。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年度は1月と5月の2回開催され、9月にも予定している。メンバー構成は地域老人会会長、地域町作り協議会長、町内サロンリーダー、歌声クラブ指導者、市職員、民生児童委員、利用者家族、その他当法人理事長、施設長の十名で構成されている。地域に密着したメンバー構成が活かされ相互のイベントの交流が盛んで地域密着という理念は活かされている。管理者、職員の異動による試行錯誤はあるが理念遂行の意欲は強く感じられ、若い力を期待したい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	大々事動による家族の戸惑いは否めないが、家族会が結成されイベントの手伝いや参加を通して意志の疎通を図る努力をしている。月1回の花ごよみ便りを発行し、利用者一人一人の楽しそうなスナップ写真や力を入れている誕生会の様子などを家族に好評である。苦情処理箱も玄関に設置されているが今のところ利用した人は居ない。今後利用者の外出など家族会に協力を働き掛け親密な関係を構築していきたいとのことであった。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会メンバーの協力によるボランティアの歌声クラブ指導やフラワーアレンジメント、茶道、理、美容の施行など定期的に定着しており、隣接の多機能施設「遊楽庵」に移動して楽しんでいる。その他に町内の季節毎のイベントや施設の納涼祭など交流が盛んで今月もブドウ狩りを計画し、みんな楽しみにしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	改正介護保険法に則った地域密着型、認知症への理解等を盛り込んだ理念の作りこみの指導を受け、新しく作成した理念は、4つに纏められその一つに「人と人との繋がりを大切にし、馴染みの人間関係作りに努めます」と記している。		新しい理念の最初の項目に「認知症高齢者のお一人お一人の個性を尊重し」とあったため、新しい管理者は提唱や掲示には適さないのではという疑問を持ち、認知症高齢者を利用者に見替えるなどの親しみやすい変更を意図しているため、早急な修正取り組みを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はあくまで、理解、共有、実践の上に成り立つものであり納得のための改定、改善もやぶさかではない、との意見の一致を見た。今後、利用者の為にとという大前提のもと皆で早急に検討していくこととなっている。上記検討は理念の共有、実践に資するものとする。		理念の内容も大切だが、言葉のニュアンスや表現の方法への心配りも大事、という管理者の思いが結実することを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とホームとの交流は濃い。運営推進会議メンバーの協力でホームへのボランティア活動も盛んで、歌の指導や茶道、フラワーアレンジメント、などの指導が行われている。観桜会、芋堀り、餅つきなど地域のイベントへも積極的に参加している。施設の納涼祭には多くの住民の参加と交流がある。		地域の小学校の運動会の招待があり子供たちとの交流を楽しみにしていたがインフルエンザの流行で取りやめになった。次回の招待で子供たちとの交流を実現させてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者、ケアマネジャー共に交代して日が浅く外部評価に対しての実質的な作業に取り組むのが精一杯で職員との意義の共有や共同の取り組みまで至らなかったが、今後の大きな課題の一つにしたいとの認識の一致を見ている。評価を活かした一定の改善もなされている。		職員はベテランが多く、評価の意義も理解しており、今後新しい管理者と協力して、より、ケアの向上を目指して欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催という認識は持っているが管理者交代があってから5月に1回の開催が実情で討議内容は内部情勢の説明と、今後の新体制への協力依頼、行事計画と実績報告、その他の助言等である。9月の開催を予定しており、何でも相談できる場として向上に繋がりたいとしている。	○	省令に基づき、2ヶ月に1回の開催を実現していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者としての経験が極めて浅く、認定調査時のほか、随時どんなことでも相談している。開所以来、近江八幡市からの介護相談員を受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月カラー刷りの「花ごよみ便り」を発行して利用者の日常の様子やホームの動きなど知らせている。特に個人個人のスナップ写真や誕生会の様子など喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置していつでも受け入れる体制をとっている。契約時ホーム内の苦情窓口、行政担当課、国民健康保険団体連合会の窓口を明記し説明している。又家族会にも働きかけ、横の連絡がとれるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	此の度の人事異動(管理者、ケアマネジャーの退職)に関する利用者や家族への影響は少なからずあって管理者、ケアマネジャーが全員の家族個別に手紙を出して説明している。職員数名の退職者があってその後遺症は現在もある。今後、職員の定着に向けた努力が運営者の理解を含めて始められている。	○	大きな組織の中で大局的に見ると必要な移動であっても何らかのダメージは否めない。特に利用者、家族にとっては説明の徹底がなされなければ不信につながる。こんな時こそ職員全員が心を合わせて様々な問題と対峙し、より良い雰囲気作りをされることを期待したい。運営者の配慮も期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は全員受けられるようにしている。外部の研修に関しては、個人別育成計画に基づいて、できるだけ受講できるよう努めている。職員の内2名が介護福祉士の試験をうけることになり目下勉強中である。管理者も介護支援専門員の資格取得を視野にいれて努力しており、個人別育成計画を推進させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの連携を中心としてネットを通して情報交換がすぐ出来るシステムを利用しているが課内の新体制作りが全てに優先するため地域の同業者との交流のひろがりは今後の課題となっている。	○	早く新体制を固めて、同業者間の交流や勉強会に参加できるように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に何度か施設にきていただき皆と一緒におやつを食べたりお話ししたり、と馴染みの関係作りを支援している。つい最近も入所希望の利用者と家族を納涼祭に招待して皆との交流を深め、違和感も抵抗もなく入所された。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と信頼関係が出来る様々な面を見せてくれる。料理が得意だったり、ケーキ作りが得意な人、また老いても身だしなみに心を配り着るものもその日の気分に合わせて、いつもきちんとお化粧している人など、学びや気づきを多くいただくことも多い。		利用者が全員女性なので化粧や整髪身だしなみに対する関心は衰えない。そのため定期的に専門の理、美容師に来てもらっている。利用者が皆綺麗でおしゃれなのは見ていてとても楽しい。いくつになっても美しさを追求する心を支援して欲しい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話のなかで声かけをしたり、個々の思いの把握に努めている。見守りが見張りにならないように、出来るだけ自由に過ごせるよう、手をかけず目をかけてというケアの基本を大事にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は以前はセンター方式で作成していたが、新ケアマネジャーは包括支援プログラムに則ったケアプランを作成している。個人情報大きく一冊に閉じ込みフェースシート、介護計画、アセスメント、モニタリング、病歴、かかりつけ医のサマリー等非常に充実している。情報は家族、職員が共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しは、6ヶ月毎となっている。小さな変化にも細心の注意を払い、その都度ケアプランに反映させ、職員全員への確認徹底をし、家族の同意を得ている。業務日誌には、バイタルチェック、水分、排せつ、薬、摂食量、往受診、入浴、爪切り、シーツ交換居室掃除、裏面に夜勤者の記述など綿密に行っている。	○	見直し期間については、3ヶ月ごととなるよう努めて欲しい。業務日誌のA4紙には盛り込み過ぎの感じがした。細分化されすぎると、行違い、ケタ違いのおそれも否めない。検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整えている為、利用者、家族、職員の安心感は大い。職員に看護師はいないが併設の看護師が即、対応してくれる。夜間の警備職員も協力者となる。又、かかりつけ医の受診も家族同伴が建前だが状況によっては職員が同伴している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者、家族、主治医の意向を聞き、希望に沿う様に支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の自立度が比較的高いことから重度化や終末期の看取りに関する指針は作成していない。然し年々利用者の日常生活動作の低下が顕著で、ターミナルの在り方について真剣に取り組む必要性は職員皆が思っている。利用者とは、ホーム側の考え方を説明し、利用者・家族の希望も確認し、その内容を医療連携体制加算同意書に記載している。		現実に直面している事例をきっかけに終末期の問題と真正面から取り組み支援体制を整えて欲しい。利用者・家族の希望も変化することもありうるので、折々再確認し、記録しておいてほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時やケアでの際には尊厳や羞恥心に充分の配慮をしてさりげなく、小さな声で行っている。個人情報やプライバシー記録書類の管理は事務室書棚に鍵をかけて保管し、机上で保管の際は必ず書類を閉じるように習慣付けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の、あなたらしく、を基本にそのひとりのペースを支援している。その日の体調や気分を優先し、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、昼食は併設の法人内センターで用意され、利用者がその運搬や配膳の手伝いをしている。夕食はグループホームの台所で料理の得意な職員の手造りで用意され、みんな楽しみに待っている。後片づけも何人かが手伝ってくれる。食事は利用者全員が三食とも完食である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴する曜日や時間帯は概ね決まっているが、一人一人の体調や気分の良いタイミングを見逃さないように声かけをしている。平均週3回の入浴となっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の中にとっても綺麗好きの人がいていろいろ手伝ったり自分の部屋の整理整頓もきちんとしている。ほかの人も、洗濯物の折りたたみや庭の草花の水やりなど日課のようにしている。また週毎にフラワーアレンジメントや、お茶、歌声クラブ、美容やお化粧品など、ボランティアの力を借りて楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーに買い出しに行ったり、回転ずしや葡萄狩りなどその時々での外出支援や毎日の花の水やり、併設センターの厨房からの食事運搬、クラブ活動のための隣接遊楽庵への移動など戸外へ出る機会はある。		ホームの近辺には出ているが以前計画した買い物ツアーとか遠出のピクニックなど是非、実現したい。本格的な外出が少ないような気がするすると管理者の反省があった。全体にADLの低下が見えるため、職員が消極的になっているのかも、しれないが、家族の力を借りたり、色々方法を模索して欲しい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の鍵はかけない。チャイムが鳴る様にして、職員が注意を払うよう努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人施設全体の合同避難訓練を年2回実施している。今年も夜間、日中を想定して消防署の指導のもと行った。また、災害時の備蓄倉庫も設置済みで取り扱い方法の研修も行った。又23年度はスプリンクラー設置の予定である。夜勤者は1人だが定時に警備員の見回りがある。		運営推進会議等を通して近隣住民の協力が得られるよう、災害時のマニュアル作成等実現させるよう検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は管理栄養士指導のもとに提供されている。食事の摂取量、水分の摂取量はその都度業務日誌に記入され問題がある場合は管理者の指示のもと適切な対応がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂の壁に利用者全員の合同手作りによる、写真を貼る大きな台紙が飾られ、折り紙や造花、手作りの卓上ゴミ入れ等いかにも女性ばかりの部屋らしく華やいでいる。天井からの自然光が部屋全体を明るく包んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各、個室はそれぞれ、馴染みのものを家から持ってきて貰い家族の写真を飾る人、沢山の衣装を綺麗に掛け並べている人、、ぬいぐるみや人形を飾っている人、など自分の生活圏をきちんと持っている。各部屋に籠にいれた竹炭がおかれて消臭の効果を發揮している。		